

St. Luke's International University Repository

聖路加看護大学紀要発行まで

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 前田, アヤ メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/278

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



聖路加看護大学紀要第20号の刊行にあたって

聖路加看護大学紀要委員会

昨年度、聖路加看護大学紀要第19号の編集の過程で、私たちは編集に携わっているとつい担当号の編集にのめり込んで、担当号だけしか見えなくなってしまう自分に気づきました。そこで、紀要第20号といえは紀要発行の一つの節目でありますので、これを機に、紀要が今どういう位置にあり、さらに今後どういう方向に向かっていくことが望ましいのか、について考えていくための手がかりとして、歴代の紀要委員会委員長に現役時代をふりかえってご寄稿いただくことを企画いたしました。「そのときどきにご苦心なされたこと、編集上特記すべきこと、あるいは編集にまつわるエピソードなど」を中心にお書きいただくことをお願いいたしましたところ、ご多忙中にもかかわらず、全員の方々にご寄稿いただくことができました。心より感謝申し上げます。

これまでに発行された19冊を並べてみますと、紀要は大学とともに歩み、そのときどきの大学の姿の一面をうつしだす一つの顔という感じがいたします。しかも19冊の紀要それぞれには、その号独自の特色のほかに、それまでのすべての号の成果が何らかのかたちで集約されています。一号一号が手作りで大事に育てられ、その集まりである19冊が全体として一つの命をもった存在のようにも思われてきます。このたびご寄稿いただいた歴代委員長の手記を読ませていただくと、そのときどきに直面した問題がなまなましく語られていて、一層その感を強くいたします。このたびは後進の私どもに有益なご示唆をいただきましたことを、紙上を借りて厚く御礼申し上げます。

聖路加看護大学紀要発行まで

聖路加看護大学 名誉教授 前田 ア ヤ
(第1号～第3号紀要委員長)

本年度第20号の紀要発行を記念して、第1号の紀要発行を担当した委員長とし、思い出を書くように申しつけられた者でございます。ご依頼文には、歴代の委員長とございますが、当時の委員は前田、岡堂、栗山、有富、津嶋と並べてあって、たまたま私の名が筆頭にあるだけで委員長ではありません。第1号は委員の方々のお骨折りとご熱意とご努力の賜物でございます。なかでも岡堂先生は発案者でいらっしゃいます。そして先生には終始ご支援をいただきました。紀要発展の土台は岡堂先生によって築かれました。

先生のご指導がなかったらこの事業は成就しなかったといっても過言ではないでしょう。

さて、紀要初刊行につきましての思い出など殆んどありません。私は、今までの人生の中には楽しい思い出となっているものがいくつかございます。お先真っ暗な思いの日々もありました。目的達成のためにと全身全力を使った苦勞もありました。これらのことで紀要についての気配りが薄れていたためであったためかとも考えられます。

紀要発行についての私の思い出はありませんが、始めて紀要に係わるお仕事をなさいました先生方には、それぞれ忘れられない思いを今も尚おもちのことと存じます。紀要のための規約づくり、原稿依頼とその集収、編集と印刷、校正などご多忙のなかよくおつとめになりました。

詳細はわかりませんが、昭和47年の記録をたよりに紀要創刊号までの足跡をたどってみたいと考えました。

紀要委員会は昭和47年1月18日に設立されたとありますから、このことは前年の昭和46年から提案されていたものと思われまゝ。昭和47年には殆んど毎月紀要の発行について話し合われたものようであります。そして9月には原稿の締切日が10月30日とみんなに発表されました。12月2日の学事委員会で次のように報告がされております。

1. 12月28日までに原稿を持ち込まなければ本年度までにはでき上らない
2. 発刊の辞は日野原先生にお願いする
3. 活版印刷にすれば一部36円かかる。若し財政がゆるせばそのように決めたい(当時、大学の財政は逼迫していた)

これが発行になる最後の報告として岡堂先生から伝えられ、昭和48年7月に紀要の創刊号が発行されたのであります。

この昭和47年は紀要発行の準備とともに、学生便覧問題、カリキュラム、実習の問題、寄宿舎の問題等々の解決のため日野原学長始め教員一体となって、問題解決の方策探究に多忙な日日の連続する年でありました。いろの問題は年を越しましたが、紀要はでき上りました。

とにもかくにも昭和48年7月には紀要が刊行され大学の教育と研究としての機関であることの面目を世に示すことになったのであります。

おわりに、私は聖路加看護大学紀要創刊号に掲載されている副学長日野原先生(現学長)の発刊の辞の一部を転載させていただきまして紀要の重要性を考えてみたいと存じます。

「前部略、過去50年余の長い看護教育の上に、今後何を積み重ねるべきかが、ここ2～3年の間、われわれに問われてきたのであるが看護大学の今後の道を歩む心構えとして、もっと看護の業の科学性と技術を基礎づける研究と修練が教職の一人びとりに必要であることをわれわれは痛感するようになったのである。

今日までに、教職の多くのものは、何らかの研究業績を外に発表してきたが、もっとその内容をわれわれの努力によって充実させ、そして大学内にお互いがそれぞれの研究や教育的工夫をもっと知り合うと共に、本学の同窓生や本学に関心をもたれる学外の方々に、これらを紹介することを希ってこの研究紀要を毎年刊行することになった次第である。」

紀要発行委員の先生方に対しまして、心から厚く御礼を申し上げますとともに益々のご発展をお祈り申し上げます。

聖路加看護大学紀要第20号正誤表

ページ	行	誤	正
21	7	included <u>J</u> apanese	included <u>J</u> apanese
	9	Social <u>S</u> tudies	Social <u>S</u> tudies
	10	achieve <u>m</u> ent	achievement
42	表3	看護婦の__	看護婦のみ
56	引用文献 3)	第 <u>10</u> 回	第 <u>11</u> 回
	引用文献 4)	第 <u>10</u> 回	第 <u>12</u> 回
	引用文献 5)	第 <u>10</u> 回	第 <u>13</u> 回
65	23	<u>いろ</u> の問題	<u>いろいろ</u> の問題
69	下から8	看護学	看護学
	下から9	博士後期過程	博士後期課程
72	下から7	人口呼吸器	人工呼吸器
80	23	発行所・発行機関 記述なし	医学書院
83	最下行	操 革子	操 華子
85	下から9	学会名 <u>Narsng</u> Conference	<u>Nursing</u> Conference